

寄居町出身

市川貴仁 選手

- ICHIKAWA TAKAHITO -

寄居町出身の市川貴仁選手（寄居中出身）が、北京2022パラリンピックのスノーボードのスノーボードクロスとバンクドスラローム（いずれもクラスはSBLL2）に出場します。市川選手は、全国障がい者スノーボード選手権大会で4連覇を達成。今年1月に開催された世界選手権では、スノーボードクロスで5位、バンクドスラロームで7位に輝きました。

市川選手からメッセージが届きました！

北京パラリンピック内定をいただきました、市川貴仁と申します。私は21歳のときに車の交通事故により、左足下腿を切断する事故に遭いました。そこから1年間の入院と通院を経て、スノーボードと出会い、走る感覚を思い出させるこの競技に熱中し、気付いたらパラリンピックという大舞台に立つことができました。義足という障害をもってしまったとしてもできることはたくさんあり、何か一つのことをあきらめずに続けることは大事なことで、今でも思います。多くの人の支えにより、このスタートラインに立っているということをお忘れずに、日本代表として皆さんが笑顔に、元気になれるような滑りを出してきますので、ぜひとも応援のほど、よろしく願いいたします。



北京2022パラリンピック
出場内定！

市川選手の活躍を「おうちでみんなで応援」しよう！

▶競技スケジュール

日程	競技
3月6日(日)	スノーボードクロス予選
3月7日(月)	スノーボードクロス決勝
3月11日(金)	バンクドスラローム予選
3月12日(土)	バンクドスラローム決勝

☎生涯学習課(☎581・2121内線531)

町広報誌を振り返る

■広報よりの800号まで町広報誌のバックナンバーを紹介するとともに町の歴史を振り返ります。
今回は平成24年3月1日、ちょうど10年前に発行された町広報誌を紹介します。



今から10年前に発行された広報よりの平成24年3月号、号数は679号になります。平成24年(2012)の町の話題としては、1月、町出身の宇野博之さん、設楽啓太さん、悠太さん、小山司さんが箱根駅伝に出場し、宇野さん、設楽啓太さん、悠太さんが所属する東洋大学が往路・復路とも当時の大会新記録で優勝、見事総合優勝を果たしました。4月には、寄居スマートIC(令和3年(2021)3月全面開通)の連結許可があり、測量や設計、工事などの具体的な事業が開始しました。9月には、よりのジョブセンターが開設、11月には、寄居町デマンドタクシー(愛のリタクシー)の実証運行が開始するなど、多くの事業がスタートした年でした。



表紙を飾ったランナーたち

さて、広報よりの679号を振り返ってみると表紙には第57回寄居町駅伝競走大会で走るランナーたちが表紙を飾り、よりのトピックスには、駅伝の記録も掲載されています。6区間のうち、4区間で当時の区間新記録が生まれたとあり、多くの方が素晴らしい走りを見せた大会であったことがうかがえます。誌面構成は、行政インフォメーションや子育てサロンなど今の広報よりのほぼ変わらない内容で、全体的なデザインは町のシンボルカラーであるえんじいろが使われています。ちょうど10年前の少し懐かしい「町広報誌を振り返る」でした。